

科目名	キャリアサポート I	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済 学科	□ 必修 ■ 選択	
英文表記	Career Support I	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	□ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	こどの おりえ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	神殿 織江	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	充実した大学生活を過ごすためのポイントを理解する				
到達目標	①自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリア形成」の第一歩であることを学び、実践できる。 ②キャリア形成の基本となる「考え方」を習得できる。				
授業概要	<p>自分のキャリアをつくっていく上で、大学生からキャリア概念を形成する取り組みは決定的に重要である。責任ある仕事を継続的に体験することがない学生には、自らの判断と創造が要求されるリアルな社会をイメージしづらい。目の前の非常に狭い世界で物事をとらえ、体験的な知識も積み上がりにくい。自分の広く大きな可能性に思い至る機会も見逃しがちである。この講義では、そうした課題に学生自らが気づき、これからの可能性を広げるエネルギーを持てる内容にしたい。</p> <p>大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学生のうちに学ぶことには大きな意味がある。自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうした「考え方」や「知識」が必要であり、これから皆さんが自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要なのかを体験的・理論的に伝えたい。</p>				
授業計画					
第1回	オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説） 既存の考え方に決別～オールクリアボタンを押そう～				
第2回	自己紹介とは何かを考えてみよう				
第3回	何のために大学にきたのだろう（目的）				
第4回	大学生活がこうなればいいなあ（目標）				
第5回	伝えたい（コミュニケーション）				
第6回	自分を表現しよう（自己理解）				
第7回	協調性とは何かを知ろう				
第8回	好きなことから世の中に関わろう ～動く、感じる、考える～				
第9回	失敗は成功へ向けての授業料				
第10回	キャリアマインドをもとう ～2つの自分軸を考える～				
第11回	ディスカッションの大切さを学ぼう				
第12回	勉強・仕事の土台となるものと考えてみよう				
第13回	プレゼンテーションにチャレンジ				
第14回	w i l l から始まる大学生活				
第15回	W i l l から始まる大学生活発表会				
第16回	まとめ				
授業時間外の学習	プレゼンテーションの回は事前準備が必要とされます（1時間程度）				

履修条件 受講のルール	自分のキャリアを前向きに考える場であり、グループワークを中心に行うので、積極的に取り組む姿勢を重視します。 教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。
テキスト	「新自分デザインブック I」 東田晋三 株式会社ドリームシップ
参考文献・資料	授業時に紹介
成績評価の方法	平常点：授業での積極的取り組み、グループ参画度により評価（50%） ワークシート提出（授業中に指示）：到達目標が達成できているかの視点で評価（50%） 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、評価対象外となります。 出席回数が規定に満たない場合は履修の認定をうけることができません。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 授業に遅刻・早退すると減点対象となります。
オフィスアワー	授業前、終了後に質問を受けます。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私はドイツの大手総合化学品会社で15年以上勤務し、ドイツ人取締役の秘書、その後アジア太平洋地域のマーケティング業務などの実務に携わりました。また、MBAを取得しています。この授業を通して皆さんには、自己理解を深め、さらには社会や企業について知識を蓄積し、自分のキャリアについて考える時間にして頂きたいと思っています。
学生へのメッセージ	大学生生活を主体的に作るため、すぐに使える「考え方」と「知識」の提供を行います。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたいと考えています。 「自分を知る」「他者と関わる」ことを楽しみましょう！